

遺伝子組換えダイズの認証標準物質を頒布 —標準分析法の内部質管理のために—

技術の背景

- ・ 遺伝子組換え(GM)食品の表示制度の実効性を確保するため、食品総合研究所等のグループが組換え体の定性・定量分析法を開発し、試験室間共同試験によって分析法の妥当性を確認しました。
- ・ 妥当性確認された6種類の定量分析法は、我が国の「標準分析法」になると共に、ISO21570のAnnexに収載されました。
- ・ GMダイズとGMトウモロコシの標準物質生産についてISOガイド34(標準物質生産者の能力に関する一般要求事項)に基づく認定を取得しました。

認証標準物質の内容

- ・ 認証標準物質は、GMダイズであるRoundup Ready Soybean (RRS)を含まないものと異なる2種類の濃度で含むものの計3種類で、各1本、計3本を1セットとして、21,000円(消費税込み、送料別)で頒布します。それぞれ粉末1 gが褐色ガラス瓶に密封されています。
- ・ GMダイズであるRRSの種子とnon-GM種子の粉砕物を混合し、小分けした容器間の試料の均質性を確認しました。
- ・ 日本の標準分析法による5試験室の測定値に基づいて認証値の値付けを行いました。
- ・ 認証値は、RRS濃度として、 0.069 ± 0.010 , 0.133 ± 0.009 %と値付けされています。

今後の展開

- ・ 引き続き、新規に開発した分析法の妥当性確認のための試験室間共同試験に用いるブラインド試料を、認定を取得した品質システムで生産します。
- ・ 同じ品質システムで、標準分析法の真度を確認する内部質管理用の標準物質を生産します。

参 考

- 1) 遺伝子組換え食品検査・分析マニュアル「改訂第2版」独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
- 2) 組換えDNA技術応用食品の検査方法について(平成13年3月27日 厚生労働省 食発第110号)
- 3) 遺伝子組換え食品に関する品質表示基準(平成12年3月31日 農林水産省告示第517号)
- 4) 遺伝子組換え食品に関する表示について(厚生労働省 食企発第3号、食監発第47号)

